

## 大槌町民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 7 月 19 日掲載記事)

現在、大槌町には仮設住宅が 48 か所・2,106 戸建設されており、災害公営住宅の建設も進みつつあり、仮設住宅の生活から徐々にではありますが、次のステップへ進む段階に近づいているように思えます。

今年度は仮設住宅を含む 16 地区にて月に 1 回の「お茶っこの会」を開催しており、民生委員・児童委員をはじめ、仮設住宅の自治会が中心となり、活動しています。

震災前の「お茶っこの会」は各地区の委員が主体となり、地区 15 か所で介護予防、引きこもり防止、生きがいつくりなどを目的に開催していましたが、退任による委員数の減少などがあり、委員だけの開催は難しいことから、現在は社協や自治会と連携を行ないながら開催しています。

活動資金についても「赤い羽根共同募金 住民支え合い事業」の助成金を活用し、津波で流失した物品の購入、仮設住宅者と在宅者の合同でのイベント、震災後に担当区に移住してきた方との交流会など、地域コミュニティ形成に係る活動が多く見受けられます。

委員活動を行なっていくなかで一番の課題は、民生委員の次の世代の担い手が少ないということです。

従来より人口が少ない町ではありましたが、震災でさらに減少、委員自身も被災し、定数 48 名のところ 6 名の欠員状態であることや、仮設住宅の建設により従来の地区割り以上の規模になったことで、ひとりの民生委員にかかる負担が増加しています。

今後、災害公営住宅、住宅の再建などに伴い、地域コミュニティの形成や高齢者の見守りなど、民生委員としての活動が今まで以上に必要不可欠になると予想されます。

行政、NPO、ボランティア団体との連携や、互いにサポートし合えるような関係性、さらに委員の後継者の育成についても考えてながら活動をすすめていきます。



皆さん、民謡日本一の漆原栄美子さんの歌声に感無量でした。



桜木地区の「お茶っこの会」の様子。皆さん、月に 1 度の「お茶っこの会」を心待ちにしています。